

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程 **通学** ・通信）

事業者名：社会福祉法人台東区社会福祉事業団

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）		実施計画		
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数		実施内容
1 職務の理解	6時間	1 職務の理解	6時間	1 職務の理解
(1) 多様なサービスの理解		(1) 同左	3	(1) 講義のみ
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解		(2) 同左	3	(2) 講義及び演習：施設見学をした後に、施設やそこで働く職員をどう感じたかをディスカッションする。
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援	9時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援
(1) 人権と尊厳を支える介護		(1) 同左	6	(1) 講義のみ
(2) 自立に向けた介護		(2) 同左	3	(2) 講義及び演習：介護事例を基に利用者役と介護者役の2人一組のロールプレイングを行う。
3 介護の基本	6時間	3 介護の基本	6時間	3 介護の基本
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携		(1) 同左	1	(1) 講義のみ
(2) 介護職の職業倫理		(2) 同左	2	(2) 講義のみ
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント		(3) 同左	1	(3) 講義のみ
(4) 介護職の安全		(4) 同左	2	(4) 講義及び演習：事故事例を基に、グループでリスクマネジメント委員会を模擬開催する。

別記第1号の2様式

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携
(1) 介護保険制度	(1) 同左 3	講義及び演習：介護保険制度について講義を行った後、グループ単位に分かれて、ホームヘルプサービス利用者の事例を用いて、その利用者のレセプト計算を行う。
(2) 障害福祉制度及びその他制度	(2) 同左 3	(2) 講義のみ
(3) 医療との連携とリハビリテーション	(3) 同左 3	(3) 講義のみ
5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間	5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間	5 介護におけるコミュニケーション技術
(1) 介護におけるコミュニケーション	(1) 同左 3	(1) 講義及び演習：コミュニケーションの意義や技法などを学ぶため、利用者役と介護者役に分かれた2人一組のロールプレイングを行う。
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	(2) 同左 3	(2) 講義のみ
6 老化の理解 6時間	6 老化の理解 6時間	6 老化の理解
(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	(1) 同左 3	(1) 講義及び演習：こころとからだの変化を体感するために、高齢者疑似体験グッズを用いて、階段の昇降等を行う。
(2) 高齢者と健康	(2) 同左 3	(2) 講義のみ
7 認知症の理解 6時間	7 認知症の理解 6時間	7 認知症の理解
(1) 認知症を取り巻く状況	(1) 同左 1	(1) 講義のみ
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	(2) 同左 2	(2) 講義のみ
(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	(3) 同左 2	(3) 講義及び演習：複数の具体的な事例を示し、認知症利用者への対応をグループで検討し発表する。
(4) 家族への支援	(4) 同左 1	(4) 講義のみ

別記第1号の2様式

8 障害の理解 3時間	8 障害の理解 3時間	8 障害の理解
(1) 障害の基礎的理解	(1) 同左 1	(1) 講義のみ
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	(2) 同左 1	(2) 講義のみ
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	(3) 同左 1	(3) 講義及び演習:複数の具体的な事例を示し、障害受容についてグループで検討し発表する。
9 こととからだのしくみと生活支援技術 75時間	9 こととからだのしくみと生活支援技術 75時間	9 こととからだのしくみと生活支援技術
ア 基本知識の学習 10~13時間	ア 基本知識の学習 12時間	ア 基本知識の学習
(1) 介護の基本的な考え方	(1) 同左 3	(1) 講義のみ
(2) 介護に関することとからだのしくみの基礎的理解	(2) 同左 3	(2) 講義及び演習:高齢期の喪失体験を想像し、介護職として、生きがいやをどのように支援していけばよいのかをグループ単位で話し合う。
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	(3) 同左 6	(3) 講義及び演習:脈拍、血圧、体温、呼吸数等のバイタルチェックを行う。
イ 生活支援技術の講義・演習 50~55時間	イ 生活支援技術の講義・演習 51時間	イ 生活支援技術の講義・演習
(4) 生活と家事	(4) 同左 6	(4) 講義及び演習:ズボンのゴムテープ交換、裾上げやボタン付け等、家事援助の実技演習を行う。
(5) 快適な居住環境整備と介護	(5) 同左 6	(5) 講義及び演習:家庭内に多い事故やバリアフリーについて学び、障害者にとって理想的な居住環境について、グループごとに発表する。
(6) 整容に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護	(6) 同左 6	(6) 講義及び演習:洗顔・口腔ケア・整髪・髭剃り・爪切りなどの実技演習を行う。
(7) 移動・移乗に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護	(7) 同左 6	(7) 講義及び演習:ベッドと車いすを使用した移乗介助、段差やスロープを利用した車いす操作の実技演習を行う。
(8) 食事に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護	(8) 同左 6	(8) 講義及び演習:利用者と介護者に分かれ、嚥下機能障害者の食事介助方法の実技演習を行う。
(9) 入浴、清潔保持に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護	(9) 同左 6	(9) 講義及び演習:全身浴、足浴、手浴、清拭などの実技演習を行う。

別記第1号の2様式

(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(10) 同左	6	(10) 講義及び演習:2人一組になり、ポータブルトイレでの排泄介助方法、紙オムツ交換の実技演習を行う。
(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(11) 同左	6	(11) 講義及び演習:介護用寝具を活用したベッドメイキングの実技演習を行う。
(12) 死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護	(12) 同左	3	(12) 講義のみ
(実習)* (50~55時間中12時間以内)	(実習)*	0時間	(実習)*
介護実習 ○時間			
ホームヘルプサービス同行訪問 ○時間			
在宅サービス提供現場見学 ○時間			
ウ 生活支援技術演習 10~12時間	ウ 生活支援技術演習 12時間		ウ 生活支援技術演習
(13) 介護過程の基礎的理解	(13) 同左	6	講義及び演習:事例を基に生活課題に注目したミニカンファレンスを行い、それぞれの役割に応じたチームアプローチ、介護計画について話し合い介護計画原案を作成する。
(14) 総合生活支援技術演習	(14) 同左	6	講義及び演習:グループ単位で、事例に基づき高齢者の心身の状態に合わせた介護計画を策定し、計画に基づき一連の生活支援技術の実技演習を行う。
10 振り返り 4時間	10 振り返り 4時間		10 振り返り
(1) 振り返り	(1) 同左	2	講義及び演習:グループ単位で、根拠に基づく介護、介護過程、チームアプローチなど、これまで学んだことを振り返って話し合いをする。
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	(2) 同左	2	(2) 講義のみ
追加カリキュラム			
計 (130時間)	計 (130時間)		

※「9ところとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。